

野外教育研究室(諫山ゼミ)の特色ある教育活動

諫山 邦子

アドベンチャー教育

非常勤講師と常勤教員の連携による授業で、自分自身を見つめ、他人と自分との関わり、人間と自然との関係性について、体験学習の手法を取り入れて学びます。非常勤講師の「樹木」を媒体・教材とした『ツリークライミングの理論と実践』(写真1, 2, 3)では、仲間と協力しながら、普段は登ることの少ない樹木の上で自分を開放したり、身近な樹木について考えたりします。また、常勤教員による『遊び場づくり』写真4では6種類のロープワークを学んだあと、公園でブランコ、カニ渡り、ターザンなどグループで企画したロープと樹木を活用した遊び場を作り、工夫した点、使い心地などを相互に評価しあいます。



写真1



写真2



写真3



写真4

次頁へ続く

地域教育特講

地域の産業・人材・自然を活用したプラクティス系授業として、地域の子どもを対象とした企画を行います。2010年度は「そばうち」と「西別岳登山」の企画・運営を行いました。

そばうち

そばについて調べ学習を行った後、地域のそば職人からそばとそば打ち技術について学びます。次の時間には学生がリーダーを務め、公園で子ども達にそば打ちを指導し、一緒に味わう活動を行いました（写真5、6）。

西別岳登山

学生が数回の下見を含む事前準備を行います。そして、子ども達が登山に親しみ自然を満喫するためのクイズや、往復のバス乗車を有意義に過ごすためのバスレクリエーションを企画し、登山当日を迎えます（写真7）。



写真5



写真6



写真7

この授業では、子どもの募集、地域の人材との交渉、下見による安全確保など、実践を行う上での力量を高めることができます。